13. 筋骨格系および結合組織の疾患

文献

廣田里子、伊藤和憲、勝見泰和. 慢性腰痛患者を対象としたトリガーポイント治療と圧痛点治療の比較対照試験−高齢者 9 例に対する予備的研究− *全日本鍼灸学会雑誌* 2006; 56(1):68-75. 医中誌 Web ID: 2006156313

1. 目的

慢性腰痛患者に対するトリガーポイント治療と圧痛点治療の有効性の評価

2. 研究デザイン

準ランダム化比較試験 (quasi-RCT)

3. セッティング

明治鍼灸大学付属病院整形外科、京都、日本

4. 参加者

慢性腰痛患者 9 名 (66-77 歳、平均年齢 71.9±3.4 歳)

5. 介入

Arm 1: トリガーポイント治療群、計 5 回 (週 1 回) 罹患筋へのトリガーポイント治療。

Arm 2: 圧痛点治療群、計 5 回 (週 1 回) 疼痛領域に圧痛点治療。

6. 主なアウトカム評価項目

VAS (痛みの評価) および RMDQ (QOL の評価)

7. 主な結果

VAS および RDQ において、5 回目の治療終了時にトリガーポイント治療群内で、有意な改善がみられた (P<0.01)。しかし、圧痛点治療群においては、値の減少はみられたが有意な改善はみられなかった。また、治療終了時から 1 か月後の追跡調査では、トリガーポイント治療群では治療効果が継続し、治療前と比べると有意な改善がみられた (P<0.01)。しかし、圧痛点治療群では治療の持続効果はみられず、元に戻る傾向であった。

8. 結論

トリガーポイント治療群は少ない治療回数で痛み (VAS) および QOL への影響 (RMDQ) に有意な改善がみられた。その一方、圧痛点治療群は顕著な治療効果がみられなかった。よって、トリガーポイント治療は圧痛点治療とは異なる可能性がある。

9. 鍼灸医学的言及

記載なし。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

参加者の組み入れ条件が明確であり、十分な期間の追跡も行われており、大変よくデザインされた RCT 研究である。混同しがちなトリガーポイント治療と圧痛点治療の効果の比較の差異は大変興味深いものである。しかしながら、最初の振り分け時が組み入れた順序に従っている点は、適切なランダム化とは言えないのが残念である。また著者も述べているように、研究デザイン上、マスクやプラセボ効果の検証が不十分な点などが残念である。また被験者数が少ないため、結果は限定的である。さらに臨床において実用化するにあたっては術者の技術により効果のばらつきが生じることが示唆される。今後、臨床への再現性を高めるためにもこれらの問題を考慮し、今後さらなる研究を期待する。

12. Abstractor and date

松峰理真 2010.12.14